

管内の各学校では、児童生徒が主体的に取り組むために授業スタンダードや学力向上コーディネーターによる示範授業等を基に、目指す授業像を共有した組織的な授業改善が進められています。子供主体の授業の質を向上させるためには、「めあて」から「まとめ」「振り返り」までにつながりをもたせ、より子供の思考に沿った授業構想をすることが大切です。

以下に示すQ&Aや設定例を参考に、「めあて」と「まとめ」の整合性や「振り返り」の質の向上を図り、子供にとって学びの実感がもてる授業づくりを推進しましょう。

「まとめ」「振り返り」の基本的な考えに関するQ&A

Q 「まとめ」と「振り返り」の違いは何ですか？

A 「まとめ」は、本時のめあてに対する答えや結論を整理したり確認したりする活動です。
「振り返り」は、本時の学習の取組全体を見返して、学習内容との関係付けを図ったり、自己の学びの変容を自覚したりする活動です。

Q なぜ「振り返り」をするのですか？

A 「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、教師の授業改善を図ると共に、子供たちの自ら学ぶ力を育てることが大切です。

学習内容との関係付けは、学んだことを過去の学習や他の教科と結びつけて考えさせたり、身近な生活と関係づけて考えさせたりし、学びの価値や楽しさを実感させることにつながります。自己の学びの変容を自覚させることは、過去の学びの生かし方や多様な追究の方法、友達との意見交換の仕方など、学び方の選択肢を増やすとともに学びの手応えをつかませることにつながります。

Q 「振り返り」をさせる際に、留意することはありますか？

A 「振り返り」は、単なる感想ではなく、教科や学習内容に即して目的をもって行われることが必要です。そこで、単元の中で計画的に行うとともに、振り返りの視点をもたせるようにしましょう。

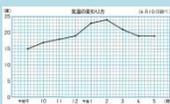
「めあて」「まとめ」「振り返り」の設定例

例：算数 小学校4年生 「折れ線グラフ」

学習活動

気温の変化の様子は、折れ線グラフのどこに着目し、どのようにあらわれているかを考える。

問題提示



線が上がったり下がったりしてね。

棒グラフとは違うグラフだな。

めあて

折れ線グラフのどこに注目すれば、変わり方が調べられるだろう。

問題の追究

まとめ

折れ線グラフの傾きに注目すれば、変わり方の大きさを調べることができる。

振り返り

【視点】学習内容について

傾きが急だと変わり方が大きいとすぐに分かるので、折れ線グラフは便利だと思いました。

【視点】他教科とのかかわり

理科で晴れの日と曇りの日の気温を調べる際、折れ線グラフに表すと分かりやすいと思いました。

【視点】友達とのかかわり

Aさんの「時間がつながっているときに折れ線グラフを使うとよい」という話になるほどと思いました。

ポイント

めあてでは…
「どのように」「なぜ」といった問いのある「めあて」にすることがポイントです。

まとめでは…
本時のねらいに対して、答えや結論となる整合性のある「まとめ」を先に考えることが大切です。

振り返りでは…
「学習内容について」「次時へのつながり」など、振り返りの視点を提示しましょう。

例：社会 小学校6年生 「明治の国づくりを進めた人々」

学習活動

黒船の来航から国内が混乱して、若い武士たちが江戸幕府を倒すまでの様子について考え話し合う。

問題提示



どこの国の船なんだろう？

何のために日本に来たのだろう？

めあて

江戸幕府は、なぜ、倒れたのだろうか。

問題の追究

まとめ

木戸・大久保・西郷らの若い武士たちが、アジアに進出してきた外国にも対抗できる強い国をつくるために、幕府に代わる新しい政府をつくらうとしたから。

振り返り

【視点】次時へのつながり

もっと日本を強い国にしようと考えた人たちはすごいと思いました。これからどんなふうにして、国を強くしていったか知りたいです。

【視点】学び方について

班での共有では、ノートにまとめた関係図を用いながら、自分の考えを上手に説明することができました。